

意見の概要と市の考え方

提出番号	意見番号	意見の概要	市の考え方
1	1	インバウンド誘客に関する施策について、案内や体験の中で「ローカルの人と関わる」視点を、より明確に位置づけることが有効ではないか。観光客の満足度向上と同時に、市民の参画意識や国際理解の促進にもつながると考える。また、観光に関わる人への支援は、観光を事業とする民間事業者向けが中心だが、「観光客を支えたい、観光地づくりに関わりたい」と考える市民個人が参画できる仕組みや支援、門戸の広げ方も検討の余地があると感じる。	インバウンド観光を推進する上で「ローカルの人と関わる」視点は、考慮すべき内容と認識しております。地元住民との関わりを観光要素の一つとして捉え、ボランティアを活用した繁忙期の観光案内やインバウンド受入が可能な地元事業者による体験観光の発掘等の取組を検討してまいります。また、観光を担う人財づくりの観点から、「ひたちなか市観光ボランティア」の運用改善を含め、市民が参画できる仕組みづくりに取り組んでまいります。
1	2	東京方面からの日帰り・宿泊なし観光(例)を想定した導線提案を、計画の中で例示してはどうか。あわせて、東京方面や茨城空港からのアクセス、ひたちなか海浜鉄道の利用方法などを「1日観光モデルプラン」として一体的に整理し、外国人向けに英語版も用意することで、初めて訪れる方にとって分かりやすく、有用な情報提供になると考える。	来訪するターゲットを想定した観光モデルプランの提案は、戦略的な観光プロモーションとして取り組むべき内容と捉えております。現在、市で発行している観光パンフレット（日本語版・外国語版）は、観光スポットや近県からのアクセス情報の紹介に留まっている状況にあります。今後、来訪者の属性や季節を意識した日帰り・宿泊別観光プランや市内周遊マップ等の情報発信に取り組んでまいります。観光を想定した具体的な導線提案については、内容を精査の上 HP・SNS 等での発信を目指します。
1	3	市民意識調査等では、インバウンド増加を前向きに捉える声が多い一方で、実際に観光客を受け入れる側が対応できるための準備や支援が重要だと感じた。特に、駅周辺での案内体制の整備、店舗や市民向けの簡単な多言語対応支援、市内在住外国人の参画などを組み合わせることで、現場の不安を軽減し、持続可能な受入体制につながるのではないか。	本市の玄関口である JR 勝田駅においては、観光案内所を年間 160 日程度開設（土日祝・繁忙期の平日）し、多言語に対応した観光案内を実施しております。その他駅周辺での案内体制としては、各所の裁量でご対応いただいている現状であります。今後、観光協会や商工会議所等と連携し、インバウンドの現状把握に努めるとともに、外国語観光パンフレットを活用の他、観光案内・店舗対応で活用できる多言語コミュニケーションシート等の作成・周知などの取組を検討してまいります。
1	4	酒列磯前神社の初詣イベントなど、冬季でも受け入れられるストーリー性のある観光施策は、閑散期対策として有効であり、冬の観光客増加につながる可能性があると感じた。また、本市のイベントや観光施策は、市民目線でも家族向けが多い印象であるが、国内の一人旅・出張等に合わせた短時間観光の需要も一定数あると考えられる。一人でも参加しやすく、楽しめるコンテンツを意識的に用意することも、観光の幅を広げる上で重要だと思う。	家族連れや一人旅、出張など、来訪者の属性や滞在時間に応じて楽しめる観光プランを提示することは、戦略的な観光プロモーションの一つであると捉えております。冬季を中心に、これまで十分にスポットが当てられてこなかったコンテンツの発掘・拡充に取り組むとともに、地域資源を幅広くカバーする発信力や情報編集力の向上など、情報発信体制の強化を推進してまいります。

2	1	十五郎穴横穴群の前面に観光客が利用できる、大型の駐車場を整備してほしい。	十五郎穴横穴群の整備につきましては、整備の大きな方針を決定する「十五郎穴横穴群及び虎塚古墳保存活用計画」を令和9年度中に策定する予定です。 この計画を策定するために、令和7年度に「十五郎穴横穴群及び虎塚古墳保存活用計画策定委員会」を立ち上げ検討を重ねてまいります。 その後、より具体的な整備方針を固める「保存整備計画」を策定してまいります。 具体的な整備の内容につきましては、これらの計画策定の段階で検討してまいります。貴重な史跡を後世にしっかり残すことを前提に活用を図ることとなります。
2	2	大型の駐車場の片隅に東屋を造り地元生産の干し芋の試食や土産店、そしてそばの軽食喫茶コーナーを造り、もてなしてほしい。	土産店や軽食喫茶コーナーの設置に関しては、当該史跡の保存・活用に直接関連するものではないため、「十五郎穴横穴群及び虎塚古墳保存活用計画」や「保存整備計画」に盛り込むことは難しいと考えます。
2	3	虎塚古墳と一体性をもちながら道路（見学コース）を計画してほしい。	2-1の回答と同様になります。
2	4	国営ひたち海浜公園と協調性をもち、駐車場周辺の整備を行い、時節に合ったチューリップやネモフィラ、緑コキア、赤コキアなどを植え付け、三者（海浜公園、虎塚古墳、十五郎穴）が一体となった、質の高い観光地、名所作りを提案する。	駐車場周辺の整備に関しては、2-2の回答と同様になります。 質の高い観光地、名所作りにつきましては、十五郎穴横穴群は東日本最大級の横穴群であり、令和6年に国指定史跡となるなど、虎塚古墳とともに歴史的価値の高い文化財であるため、保存により良好な状態で後世に引き継ぐことを優先し、そのうえで観光資源のひとつとして活用・PRしてまいります。
2	5	早急な整備として、枯れ木の伐採処分、道路まで伸びている樹木の伐採処分等の手入れをしてほしい。	枯れ木の伐採処分や樹木の手入れにつきましては、市内全域の史跡を管理する必要がありますので、優先順位をつけながら順次進めてまいります。
2	6	早急な整備として、虎塚古墳と十五郎穴横穴群との道路の仮整備をしてほしい。	虎塚古墳と十五郎穴横穴群の周辺道路の仮整備につきましては、計画策定の状況を見ながら検討してまいります。
3	1	現行の観光振興計画では、ひたちなか市の歴史的財産を観光資源として活かす視点が十分に取上げられていないように感じる。ひたちなか市の歴史的な財産は、今すぐにも効果的に活用できる大きな可能性を秘めている。観光振興計画において、歴史的資源の利活用に重点を置き、再検討いただけますと幸いです。	史跡や伝統の祭りをはじめとする歴史的資源は、観光との連動により、価値向上や地域の魅力発信につながるものと認識しております。第3期観光振興計画において、歴史的価値あるスポットの紹介の他、徳川家ゆかりの地などこの地ならではの歴史探訪による回遊の促進等の取組を継続して行ってまいります。また、本市の歴史的資源に関する資料を掲載します。
4	1	ネモフィラやコキアなど季節の植物が見頃の際には交通渋滞も頻繁に発生している。環境配慮の観点から見た場合、レンタルサイクルがあってもよいのではないかと。まずは勝田駅と海浜公園との間の利用を主軸として試験運転をし、その後に市内観光拠点へ拡大してはどうか。自転車と共に市内おすすめ観光スポット地図などの配布（QRコード連携等検討）、商店会とスタンプラリーイベント等で横連携しながらともに発展できないか。	ひたちなか市では、主に2つの事業者で通年のレンタサイクルを実施しております。勝田駅東口・表町商店街に位置するひたちなかまちづくり(株)の「レンタサイクル tamariba」は、ひたちなか海浜公園方面への移動にも利用され、ひたちなか海浜鉄道(株)・那珂湊駅の「みなとちゃんレンタサイクル」は、那珂湊エリアや大洗町の観光地アクセスに利用されております。今後、さらなる活用促進を図るとともに、利便性向上のため事業者・観光施設と連携した返却場所拡充等について検討してまいります。 また、観光振興課では、今年度新たに市独自のサイクルマップの作成を進めており、市内回遊ルートと合わせ観光スポットやおすすめの立ち寄り店などの情報を掲載し、発行後にはレンタサイクル事業者での配布も行う予定です。今後、事業者や観光スポット、商工会議所等との連携により、レンタサイクルの活用を含めたサイクルツーリズムを推進してまいります。

5	1	「地域公共交通計画(案)」のアイデアとの連動、整合性が不十分に感じる。例えば、運行・人流データをもとにしたデジタル連携基盤、市民がより積極的にかかわれるしくみなどの構築である。また、インバウンドを含む地方誘客を推進には、広域交通（空港・高速道路・周辺都市との連携、ネットワーク構築）が重要であり、その点について本計画（案）で強調すべきと考える。	公共交通と観光は関連の強い分野と認識しております。調査データの共有等を通じて、「地域公共交通計画」との連携を図り、計画を推進してまいります。また、インバウンドを含む地方誘客の推進にあたっては、広域交通事業者、市内交通事業者をはじめとする関係事業者・団体と連携し、移動利便性の向上に努めてまいります。
5	2	本計画（案）では、インバウンド旅行者数の目標、多言語化や受入環境整備の記述はあるが、消費額単価の向上策、宿泊を増やす戦略、MICE（会議・展示会）誘致策、日帰り中心の構造を変える戦略などについて、より踏み込んだ対応が必要と考える。市民、関係事業者、識者などを巻き込んだフォーラム、協議会などの設置、議論が求められる。	インバウンド消費額・宿泊数を増やす戦略については、旅行者（ターゲット）の絞り込みとインバウンド向けの観光メニューづくり、そして、これらを加味した誘客宣伝を展開してまいります。MICEの誘致につきましては、茨城県 MICE 誘致推進協議会や周辺市町村と連携し、本市の観光資源の活用も視野に入れた誘致への取組みを検討します。また、商工会議所を事務局とする本市の「インバウンド推進協議会」において、情報の共有や今後の取組を議論してまいります。
5	3	観光DXの取組の具体的な中身が見えません。データ基盤構築、効果検証、マーケティング高度化、データ分析体制確立、事業者連携強化、などについてより深掘りし、計画に明示すべきと考える。	観光DXの活用については、今年度試験的に人流データ分析システムの活用を行っており、今後、観光協会等と連携しながら、本市に適した施策の在り方を模索していく段階にあります。具体的な取組内容については、本計画内で触れている、データ分析・効果検証、観光産業の生産性向上、旅行者の利便性向上や周遊促進といった観点から、先進地における取組や導入事例の効果およびコスト面に関する情報収集を行い、本市の実情に即した取組の検討を進めてまいります。
5	4	環境負荷軽減、住民満足度、景観保全といった持続性ある観光の視点が不十分であると思う。グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会（GSTC）が定める、国際基準に基づく持続可能性の評価・認証取得などについても検討し、計画に含めるべき。	観光庁では、グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会（GSTC）*で定める国際基準に準拠し、日本の特性に合わせた「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」を策定・公表しております。本計画内でも日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）に触れ、ガイドラインに配慮した観光振興に努めてまいります。 * グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会（GSTC）…、持続可能な観光の推進と持続可能な観光の国際基準を作ることを目的に、2007年に発足した国際非営利団体
5	5	観光産業の待遇改善・雇用環境改善の視点が欠けている。国も、観光産業の収益力・生産性を向上させ、従事者の待遇改善につなげる、としている。この点を検討し、計画に明記すべき。	国においては、これまで観光地・観光産業における人材不足対策や観光DXに対する補助事業等を実施しております。本市としては、今後も情報収集に努め、観光協会と連携しながら事業者への補助金情報の提供や活用支援を行うことで、観光産業における生産性向上や雇用環境の改善につながる取組を計画に盛り込み、推進してまいります。
5	6	本計画（案）では、3つの柱とした基本方針を掲げ、様々な具体策を提示しているが、それらを統率、けん引する「司令塔」的役割の存在が不明確である。DMOという、行政・事業者・市民など多様な関係者を巻き込み、観光戦略の策定・実行・マネジメントを司る組織を明確に位置付けるべき。	計画推進の牽引役については、計画推進の管理を行う「推進協議会」、ひたちなか市観光協会、ひたちなか市が担うことを想定しており、計画内にも表示します。現時点で本市にはDMO*に該当する組織はありません。今後、観光協会の体制強化と合わせ、DMOについても検討してまいります。* DMO(観光地域づくり法人)…地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域への誇りと愛着を醸成する地域経営の視点に立った観光地域づくりの司令塔として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定し、着実に遂行する機能を備えた法人。

6	1	茨城県ひたちなか大洗リゾート構想での提案内容をもっと採用すると良い。また、茨城県の観光入込客数で、第1位のひたちなか市と第2位の大洗町が積極的に連携して、相乗効果等により、長期滞在の観光地、リゾート地として大きく発展・拡大し続けるようにすると良い。	茨城県が平成31年3月に策定した「ひたちなか大洗リゾート構想」については、県を中心にひたちなか市・大洗町および両市町の商工・観光団体が構成員となる「ひたちなか大洗リゾート構想推進協議会」において、取組を推進しております。本計画においては協議会概要や市域を超えた連携について触れ、協議会において地域の実情に即した施策について議論を重ね、取組を行ってまいります。また、本市においても活用可能な視点を取り入れ、観光振興に活かしてまいります。
6	2	具体的施策「ひたちなか海浜鉄道を軸とした快適で楽しい回遊環境の整備」に関して、ひたちなか海浜鉄道の駅と大洗港・大洗水族館や鹿島臨海鉄道大洗鹿島線大洗駅とを、連絡バス・周遊バスや水上バス・観光船等で繋ぐと、利便性向上と相乗効果により、観光客を大幅に増大し、鉄道乗車数も大幅に増大し、道路渋滞対策にも寄与すると思う。	ひたちなか海浜鉄道的那珂湊駅と大洗町方面との接続については、現在、路線バスやレンタサイクル、タクシーが主な移動手段となっております。周遊バスや水上バス、観光船等の新たな接続手段については、事業者との連携による事業展開が不可欠であることから、今後、観光需要の動向や、関係事業者の動向等を踏まえ、検討してまいります。
6	3	具体的施策「公共交通機関やクルーズ船等と連携した市内観光の推進」に関して、海岸近くの観光名所である国営ひたち海浜公園、那珂湊おさかな市場、ほしいも神社、酒列磯前神社、阿字ヶ浦海岸、平磯海岸、リゾート地等、更には大洗港・大洗水族館を水上バス・遊覧船、連絡バス等で円滑に便利につなぐと、相乗効果等により、長期滞在の観光地、リゾート地として大きく発展・拡大し続けて良いと思います。また、道路渋滞対策にもなり、観光客や地域住民の満足度も向上すると思う。	移動手段においては、本市ならではの観光を楽しめる「ひたちなか海浜鉄道湊線」を軸とした回遊を重要な取組の一つと位置付けております。その上で、市内観光地間や大洗方面への新たな接続手段については、「ひたちなか大洗リゾート構想推進協議会」における取組の一つとして、観光シーズンに周遊バスの試験運行を実施しております。令和6年度には、海浜公園西口・南口～那珂湊おさかな市場～アクアワールド・大洗～大洗磯前神社～めんたいパーク大洗～大洗駅間で運行を行い、令和7年度には、国営ひたち海浜公園エリアと那珂湊おさかな市場エリアを結ぶパークアンドライド・シャトルバスの取組を実施しました。試験運行によるデータや観光需要、関係事業者の動向等を踏まえながら、今後の取組について検討してまいります。
6	4	具体的施策「長く滞在したくなるコンテンツの充実や宿泊の推進」に関して、海×宿泊・飲食により、リフレッシュやラグジュアリーな観光や暮らしの場をつくる事も良い。また、ひたちなか市の海に見える場所等リフレッシュ場所を、観光や2拠点生活の拠点として、環境整備やPRを強力に推進する事も非常に大事である。	本計画のビジョンとして掲げている「非日常と感動」の創出に向け、海を活かした魅力の向上は、市として今後力を入れていきたい項目の一つと考えております。宿泊施設の誘致については、茨城県が実施している補助金や各種優遇措置等の情報を整理し、市として事業者等が活用可能な支援制度に関する情報提供を積極的に行ってまいります。また、阿字ヶ浦を舞台としたマルシェである「イバフォルニア・マーケット」の開催支援や、「海を年間通して楽しめる魅力の発信」を計画に位置付け、海沿いエリアのさらなる魅力度向上を図ることで、地域の活性化を促進してまいります。